

町田市環境資源部長 宗田 隆由 様

リサイクル周辺懇話会についての意見書

去る5月10日に開催されました懇話会に参加し、報告や、意見を述べられた市民の意見に対する回答について疑問に思う点がありました。今後の参考にして頂きたいと思い、指摘させて頂きました。なお、これらについての回答を文書にていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

1 2月から3月にかけて開催された『意見交換会』の周知について清住平町内会・会長さんが「通知が無かったのは、町内会として認めていないのか?」という発言がありました。『町田市町内会自治会連合会』に加入せず、町田市に登録している町内会、自治会の数は現在94です。(市民協働推進課情報提供より)清住平町内会もその一つです。こうした、町内会、自治会への情報提供や、周知のための連絡をどのようにしているのか、お知らせ下さい。

2 最終処分場について・2011年度工事概要報告の中で「4月3日の爆弾低気圧による被害」として、最終処分場内の調整池の法面ブロック陥没の報告がありました。

参加していた処分場の保全協議会の委員であるF氏は「最大120ミリの降雨に対応する処分場の保全の計画事態が低すぎて間違っている」という発言をしました。結論から言うと、施設建設担当部長の「実際には降雨によるものではない」との回答でした。

そもそも、保全協議会できちんとした見解を出さずに、住民に誤解を与える報告はおかしいと思います。又資料の、原因を想定外と思わせるような表現(爆弾低気圧)も気になりました。

①当日の雨量はどうだったのか②最終処分場内の調整池の法面ブロック陥没は何故おきたのか③保全協議会での見解が必要だと考えるがどうか

同じく、町田市廃棄物最終処分場の閉鎖に向けた動きの資料・平成23年度調査の概要と結果の報告で

●池辺浸出水マンホールに流量計を設置し、覆土工事による、雨水の浸透が少なくなったかどうか、確認しました。→現在のところ、覆土による浸透水量の減量効果は現れていません。

とあります。もう少し説明をしなければ、この表記では「多額の税金をかけて覆土工事をしているのに無駄だったのか」という誤解を与えます。

3 清住平町内会会長さんより「カラスがつついて可燃ごみを散らかされている住民がいる。ありがたいことに、ごみ収集車の職員がいつもきれいに掃除して収集してくれている。加えて、該当する住民には、手紙をつけて知らせてほしい」との意見がありました。

市側から「そのようにしていきたい」との回答がありましたが、このやりとりが気になりました。行政の役割、市民の役割があると思います。廃棄物減量推進委員と言う名前を改め『サポーター・・・』と言う制度もある筈です。市から市民に対して「こうしてほしい」といった要望をもっとして良いのではないのでしょうか。

市に登録している町内会・自治会は、年間12,000円と世帯数×200円の補助金を受けています。『サポーター・・・』にも、月何がしかの謝礼が支払われていると聞きます。市民の苦情に対して、一方的に直接応えるのではなく、サポーターの役割としての位置づけを認識してもらえる様に、この懇話会を活用して欲しいと思います。市民協働は、互いに自律が伴わないと進んで行かないのではないかと思いました。

2012年5月23日
町田市政を考える会・草の根
代表 小林 美知

12町環政第678号
2012年6月29日

町田市政を考える会・草の根
代表 小林 美知 様

町田市環境資源部長 宗田 隆由

リサイクル周辺懇話会についての意見書について

2012年5月23日に受付いたしましたご意見にお答えします。

1. 「町田市町内会自治会連合会」に登録されていない町内会自治会への連絡については、市民協働推進課より提供された「町内会・自治会情報」にある連合会に加盟していない自治会を含む311団体に対し、回覧部数として約13000部を配布しております。

2. 「爆弾低気圧」という表現については、気象庁のHPで確認したところ、使用を控える用語として示されており、適切な表現で無かったことはお詫びいたします。

気象庁HPより →使用を控える用語：「急速に発達する低気圧」などと言い換える。
爆弾低気圧：中心気圧が24時間で $24\text{hPa} \times \sin(\phi) / \sin(60^\circ)$ 以上低下する温帯低気圧（ ϕ は緯度）。例えば北緯 40° なら $17.8\text{hPa}/24\text{h}$ が基準となる。（気象科学事典等による）

①2012年4月3日の降雨量

最終処分場の雨量計 17～18時 14.5mm/h 18～19時 16mm/h

参考 5～10mm/h 雨音がよく聞こえ、道路や庭にみるみるうちに水溜りが出来る
20～30mm/h どしゃ降り状態、側溝の水があふれ、道路が川のようになる。

②最終処分場内の調整池の法面ブロック陥没の原因

- ・ 急速に発達した低気圧により短時間に激しい風雨が降り、処分場内の表面水が調整池に向かって一気に集まった。
- ・ その際水路を通り調整池に流れ込んだ水の他に、上流部で浸透した水等が法面ブロックの背部に集まり、浚渫工事のため水が無かった調整池に向かってブロックを押し出すように調整池内に流れた。

実際に降雨時に現場にて確認をしていないため断定はできませんが、降雨状況（当時の時間雨量では14～16mm/hではありますが、その間、数分の間

に集中的に降ったと思われま)と現場の状況よりいくつかの原因が複合されて生じたものと推測しております。

③保全協議会での見解の必要性について

調整池に関しては、今後最終処分場の方向性の結果に合わせ検討が必要になります。

そのため再発防止策の検討と合わせて施設の調整池としての機能・能力、構造等について現況の集水区域としての確認とともに、関係法令を整理し、課題を抽出し、必要な検討項目をとりまとめる調査を保全協議会に図り、実施していく予定です。

●については、現在詳細を確認中です。最終処分場の保全協議会を通じて公表を検討しております。

3. 町田市のごみ・資源の総量は、ごみの有料化導入以後、減少を続けており、これは、市民・市民団体と町田市が、ともに取り組んできた成果と考えています。いただいたご意見のとおり、ごみの減量は、市民や市民団体の自主的な行動や活動なくして達成できるものではありません。ごみ減量サポーター（廃棄物減量等推進員）制度は、市民協働によるごみ減量を進めていく中でも、重要な制度のひとつと考えています。

町内会・自治会から推薦されるごみ減量サポーターの方々には、地域の実情に応じたごみ減量の取り組みを、自主的に行っていただくことを、その役割としてお伝えしております。また、毎年、1年間の活動内容を町田市に報告していただき、活動していただいたごみ減量サポーターの方には、謝礼として4,800円をお支払いしています。

ごみ減量サポーターの方々に、その役割を認識していただくために、町田市からごみ減量サポーターを委嘱する委嘱式において、その役割と位置づけをお伝えし、他のごみ減量サポーターの活動の事例を紹介しています。また、地域活動をするための研修会や、他のサポーターの方々の活動をお伝えする情報紙「ごみ減量サポーターニュース」をお送りするなど、自主的な活動につながるような支援を行っています。

懇話会を活用することにつきましては、懇話会のあり方、今後の方向付けを総合的に検討してまいりたいと思います。

なお、回答が大幅に遅れましたこと、お詫び申し上げます。